

研修名 OJT指導者研修会

平成27年9月8日(火) 10:00~12:30

講演 「心の声を聴くコーチング」

講師 小山 秀樹 氏

1 全身を耳にして受け取る

- 1) 教育コーチングの信念は「人は育とうとする生き物だ」である。教育コーチングによって相手が自分でもわからない“成長を邪魔するもの”に気づき、自ら取り除いて成長していけるように、保育者、指導者は、傾聴、言葉がけをしていく必要がある。
- 2) 傾聴は、傾(かたむけ)聴(ゆるす)という意味がある。教育コーチが行う仕事は主に3つで「傾聴」「質問」「承認」である。すべてが重要だが、保育者、指導者として強化したいのは「傾聴」の力である。
 - ① 教育コーチングにおける「傾聴」の効果とは、話す本人が、自分が抱えているものを「話す」ことで、抱えているものと距離を作って客観視することが出来るようになること、つまり、自分でもわからなかった“抱えているもの”を自分から「離す」ことが出来るということである。
 - ② 教育コーチの傾聴力が増すと、相手は安心してよく話すようになるが、うまく本題を引き出せない場合、「引き出す」ための「質問」が必要になる。ここで重要なのが問い掛け方である。「なぜそんなことをしたの」「どうしてできなかったの」などの問い掛け方は「詰問」になり、相手はどんどん心を閉じ、話すことが出来なくなってしまう。「質問」によって、相手が抵抗なく正直に質問に答えられ、自分の成長を邪魔するものを自ら取り除き、成長していけるように問い掛けかたを考えなければならない。
- 3) 承認とは、ありのままを認めることである。人間は足りないところ探しをするように出来ている。しかし、いろいろな目を持ち、いろいろな角度から「相手のありのままを見て、留めること」＝「承認」が、相手により成長を目指していけるための重要な要素になる。

2 「受け入れる」ではなく「受け取る」

保育の中で、子どもが今不安に思っていること、苦しいなあと思っていることなどを、「受け入れてあげなければならない」「わかってあげなければならない」と考えてきた自分がいました。でも、思えば思うほど子どもに対して「詰問」していたのではないかと、今日の講演を聞いて、今までの保育の仕方を振り返って考えることが出来ました。また、自分自身も、「なぜわかってあげられないのだろう」と考え込みイライラする毎日があり、本当の子どもたちの姿が見えていただろうか？と思いつくことが出来ました。この講演を聞いていなければ振り返ることも思いつくことも無かったかもしれません。今日から、本当の子どもたちのありのままの姿を見るには「どんな態度で」「どんな問い掛け方で」を、行動や言葉にする前に一呼吸おいて考え、接していけたらと思います。分かりやすい御講演、ありがとうございました。

笠置町立 笠置保育所

藪下 あゆみ